

# 東京消防庁

事 項	31 年 度	30 年 度	増(△)減
(新)	百万円	百万円	百万円
1 即応対処部隊（仮称）の創設	587	0	587
<p>異常気象災害や大規模災害時等に、既存部隊が進入困難な現場へ先行し、部隊指揮に必要な情報収集体制を確立するなど、これまでにない新たな機能を持った部隊を創設する。</p> <p>発隊時期 平成32年 3 月（予定）</p>			
	規模		
高機能指揮支援車の整備	( 1台)	( 0台)	( 1台)
高機動救助車の整備	( 2台)	( 0台)	( 2台)
全地形活動車の整備	( 2台)	( 0台)	( 2台)
エアボートの整備	( 2台)	( 0台)	( 2台)
ドローンの整備 等	( 10台)	( 0台)	( 10台)

事 項	31 年 度	30 年 度	増(△)減
(新)	百万円	百万円	百万円
2 ファーストエイドチームの創設	64	0	64
<p>道路狹隘地域等における災害の拡大・未然防止 や高齢者の日常生活事故の被害軽減・未然防止 等に、より積極的かつ迅速に対応するファース トエイドチームを創設する。</p>			
<p>発隊時期 平成32年 3 月 (予定)</p>			
	規模		
<p>EVコンパクトカーの整備 (再掲)</p>	( 1台)	( 0台)	( 1台)
<p>EVトライクの整備 (再掲) 等</p>	( 2台)	( 0台)	( 2台)

事 項	31 年 度	30 年 度	増(△)減
3 救急活動体制の充実強化	百万円 2,697	百万円 1,891	百万円 806
救急隊の増強	規模 ( 6隊)	( 6隊)	( 0隊)
(新) 救急機動部隊の拡充	( 2隊)	( 0隊)	( 2隊)
(新) デイトائم救急隊（仮称）の創設	( 1隊)	( 0隊)	( 1隊)
発隊時期 平成31年 5 月（予定）			
E V 救急車の整備（再掲） 等	( 1台)	( 0台)	( 1台)
救急需要予測システムの運用・保守			
救急需要を予測し、救急隊の効率的な運用と 早期に救急搬送ができる体制を確立する。			
救急相談センター事業 等	(相談員 54人)	(相談員 48人)	(相談員 6人)
4 防災教育体制の推進	532	619	△ 87
(新) マイ・タイムラインの P R コーナーの設置			
池袋・本所・立川防災館			
(新) V R 防災体験コーナーの設置			
池袋・本所・立川防災館			
池袋防災館の夜間運営 等			

事 項	31 年 度	30 年 度	増(△)減
<p>5 情報収集基盤の強化</p> <p>[総務局に計上されている事業を含む。]</p> <p>SNSによる早期情報集約システムの整備</p> <p>災害に関する情報を多角的に収集するため、SNSの投稿等から有益な情報を抽出するシステムを整備する。</p> <p>浸水被害予測シミュレーションシステムの開発</p> <p>大規模水害発生時に、逃げ遅れ及び消防隊員等の安全を確保するため、数時間後の浸水被害地域を予測できるシステムを開発する。</p> <p>災害情報システムの機能改善</p> <p>災害情報等リアルタイム共有体制の構築 等</p>	<p>百万円</p> <p>446</p>	<p>百万円</p> <p>386</p>	<p>百万円</p> <p>60</p>
<p>6 庁舎整備に係る公有財産の取得</p> <p>老朽化が進む本部庁舎の建替え等を見据え、必要となる用地の取得費を用地会計において計上する。</p>	<p>24,000</p>	<p>24,000</p>	<p>0</p>

事	項	31年度	30年度	増(△)減
7	特別区消防団の整備・運営	百万円 4,359	百万円 4,193	百万円 166
	消防団資機材の整備			
	(新) フローティングストレーナー	規模 ( 58台)	( 0台)	( 58台)
	(新) 強力ライト・フロートロープ	( 439式)	( 0式)	( 439式)
	可搬ポンプ	( 66台)	( 66台)	( 0台)
	消火用ホース 等	( 990本)	( 990本)	( 0本)
	(新) 酷暑対策用被服の整備	( 14,500式)	( 0式)	( 14,500式)
	(新) ICTを活用した情報共有体制の整備	( 1式)	( 0式)	( 1式)
	消防団分団本部施設の整備	( 8棟)	( 8棟)	( 0棟)
	可搬ポンプ積載車の整備	( 25台)	( 25台)	( 0台)
	消防団員の募集広報			
	女性消防団員の入団促進 等			
	消防団員の技能向上			
	女性消防団員研修			
	技能講習 等			
	婦人科検診 等			